

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-064821

(43)Date of publication of application : 07.03.1997

(51)Int.Cl.

H04B 10/105
H04B 10/10
H04B 10/22
G01M 11/00
G02B 6/42

(21)Application number : 07-214793

(71)Applicant : TOTOKU ELECTRIC CO LTD

(22)Date of filing : 23.08.1995

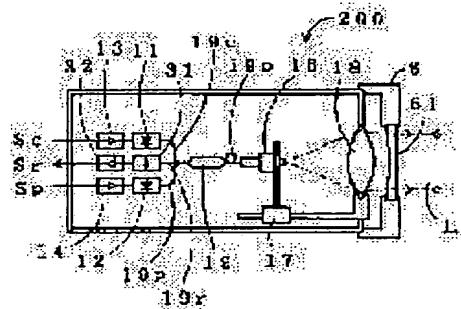
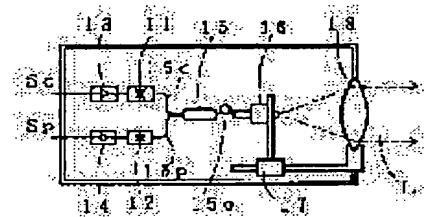
(72)Inventor : TAKIZAWA TAKAO

(54) SPACE TRANSMISSION OPTICAL COMMUNICATION EQUIPMENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To simplify the configuration of an optical system by driving a visual light semiconductor laser emitting a visual light for optical axis alignment and leading an infrared ray and the visual light to one optical fiber so as to convert emitted lights into an optical beam, thus facilitating the alignment.

SOLUTION: An optical axis drive signal Sp is fed to an optical axis alignment drive circuit 14 of the space transmission optical communication equipment 100A to allow a visual light semiconductor laser 12 to emit a red light. Furthermore, a fine-adjustment base 17 is used to adjust an interval between the end of a 3rd optical fiber 150 and a lens 18 so as to match a focus of the lens 18 with respect to the red light and to emit a red light beam Lp to space. On the other hand, a screen plate 5 is mounted to a front side of an optical receiver 100B. Then the position and the direction of the space transmission optical communication equipment 100A and/or the optical receiver 100B are adjusted so that the red optical beam Lp is properly struck onto the plate 5. Moreover, in two space transmission optical communication equipments, an infrared ray and a visual light are led to an optical fiber coupler 19, in which emitted lights are converted into an optical beam to simplify the configuration of the optical system.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 31.08.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 04.12.2001

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-64821

(43)公開日 平成9年(1997)3月7日

(51) Int.Cl.⁸
H 04 B 10/105
10/10
10/22
G 01 M 11/00
G 02 B 6/42

識別記号

序内整理番号

F I
H 04 B 9/00
G 01 M 11/00
G 02 B 6/42

技術表示箇所

R

T

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全6頁)

(21)出願番号 特願平7-214793

(71)出願人 000003414

東京特殊電線株式会社

東京都新宿区大久保1丁目3番21号

(22)出願日 平成7年(1995)8月23日

(72)発明者 滝沢 孝夫

長野県上田市大字大屋300番地 東京特殊

電線株式会社上田工場内

(74)代理人 弁理士 有近 紳志郎

(54)【発明の名称】 空間伝送光通信装置

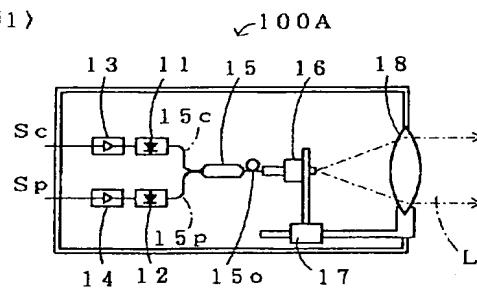
(57)【要約】

【課題】 10m以上離れた光送信装置と光受信装置の間で空間を介して高速光通信が可能であり且つ光送信装置と光受信装置の光軸合せを好適に行うことが出来る空間伝送光通信装置を提供する。

【解決手段】 近赤外光半導体レーザ11と、可視光半導体レーザ12と、伝送信号の周波数帯域が数100MHz～数GHzの高速通信のために前記近赤外光半導体レーザ11を駆動する通信用駆動回路13と、光軸合せのために前記可視光半導体レーザ12を駆動する光軸合せ用駆動回路14と、前記近赤外光と前記赤色光を第3光ファイバ15oに導く光ファイバカプラ15と、前記第3光ファイバ15oの端部に取り付けられた光コネクタ16と、その光コネクタ16を支持すると共に当該光コネクタ16の位置を前後に調整可能な微調台17と、前記第3光ファイバ15oの端部から出射された近赤外光および可視光を平行な光ビームLに形成するためのレンズ18とを具備する。

【効果】 高速光通信が可能であり且つ光軸合せを好適に行うことが出来る。

(図1)



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 10m以上離れた地点に設置した光受信装置に対して空間を介して光信号を送信しうる空間伝送光通信装置において、

波長0.8μm以上の赤外光を発光する赤外光半導体レーザと、可視光を発光する可視光半導体レーザと、通信のために前記赤外光半導体レーザを駆動する通信用駆動手段と、光軸合せのために前記可視光半導体レーザを駆動する光軸合せ用駆動手段と、前記赤外光と前記可視光とを1つの光ファイバに導く光ファイバカプラまたは前記赤外光か前記可視光かを選択的に1つの光ファイバに導く光ファイバスイッチと、前記1つの光ファイバの端部から出射した光を光ビームに形成して前記空間へ出射するレンズとを具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置。

【請求項2】 10m以上離れた空間を介して2台を対向させ光信号を相互に送受信しうる空間伝送光通信装置において、

波長0.8μm以上の赤外光を発光する赤外光半導体レーザと、可視光を発光する可視光半導体レーザと、通信のために前記赤外光半導体レーザを駆動する通信用駆動手段と、光軸合せのために前記可視光半導体レーザを駆動する光軸合せ用駆動手段と、波長0.8μm以上の赤外光を電気信号に変換する赤外光受光手段と、前記赤外光と前記可視光とを1つの光ファイバに導くと共にその光ファイバの端部から入射した赤外光を前記赤外光受光手段に導く光ファイバカプラまたは前記赤外光か前記可視光かを選択的に1つの光ファイバに導くかその光ファイバの端部から入射した赤外光を前記赤外光受光手段に導く光ファイバスイッチと、前記1つの光ファイバの端部から出射した光を光ビームに形成して前記空間へ出射すると共に前記空間から入射した光ビームを前記1つの光ファイバの端部に集光するレンズとを具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置。

【請求項3】 請求項1または請求項2に記載の空間伝送光通信装置において、前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔を前記レンズの前記赤外光に対する焦点距離に合せたり、前記間隔を前記可視光に対する焦点距離に合せたりするための間隔調整手段を具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置。

【請求項4】 請求項1または請求項2に記載の空間伝送光通信装置において、前記レンズの前記赤外光に対する焦点距離を前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔に合せたり、前記可視光に対する焦点距離を前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔に合せるための焦点距離調整手段を具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、空間伝送光通信装

置に関し、更に詳しくは、10m以上離れた光送信装置と光受信装置の間で空間を介して高速光通信が可能であり且つ光送信装置と光受信装置の光軸合せを好適に行うことが出来る空間伝送光通信装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、10m以上離れた光送信装置と光受信装置の間で空間を介して光通信する空間伝送光通信装置では、伝送信号の周波数帯域が数10MHz程度であり、発光素子として波長0.6μmの可視光を発光する

10 可視光半導体レーザや波長0.8μm～0.9μmの近赤外光を発光する近赤外光発光ダイオードが使用されている。上記可視光半導体レーザの場合、光のコヒーレンシィが強く、光ビームの広がりが小さいため、光送信装置と光受信装置の光軸合せを十分に行う必要がある。しかし、光ビームを視認することができる（赤く見える）ため、光受信装置側で白いスクリーンを利用して光軸合せを容易に行うことが出来る。他方、上記近赤外光発光ダイオードの場合、光のコヒーレンシィが弱く、レンズを用いても光ビームが広がってしまうため、光送信装置と光受信装置の光軸合せは適当でよい。従って、光ビームを視認できないが、特に支障はない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 近年の通信量の増大傾向に伴い、伝送信号の周波数帯域を数100MHz～数GHzに高速化することが必要になってきている。このような高速通信では、発光素子として波長0.8μm以上の赤外光を発光する赤外光半導体レーザを使用する必要がある。しかし、赤外光半導体レーザを使用する場合、光のコヒーレンシィが強く、光ビームの広がりが小さいため、光送信装置と光受信装置の光軸合せを十分に行う必要があるにもかかわらず、光ビームを視認できないため、光軸合せを容易に行うことが出来ない問題点がある。

そこで、本発明の目的は、10m以上離れた光送信装置と光受信装置の間で空間を介して高速光通信が可能であり且つ光送信装置と光受信装置の光軸合せを好適に行うことが出来る空間伝送光通信装置を提供することにある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 第1の観点では、本発明は、10m以上離れた地点に設置した光受信装置に対して空間を介して光信号を送信しうる空間伝送光通信装置において、波長0.8μm以上の赤外光を発光する赤外光半導体レーザと、可視光を発光する可視光半導体レーザと、通信のために前記赤外光半導体レーザを駆動する通信用駆動手段と、光軸合せのために前記可視光半導体レーザを駆動する光軸合せ用駆動手段と、前記赤外光と前記可視光とを1つの光ファイバに導く光ファイバカプラまたは前記赤外光か前記可視光かを選択的に1つの光ファイバに導く光ファイバスイッチと、前記1つの光ファイバの端部から出射した光を光ビームに形成して前記空間へ出射するレンズとを具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置。

空間へ出射するレンズとを具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置を提供する。上記第1の観点による空間伝送光通信装置では、波長0.8 μm以上の赤外光を発光する赤外光半導体レーザを通信のために駆動するため、伝送信号の周波数帯域が数100MHz～数GHzの高速通信が可能である。また、可視光を発光する可視光半導体レーザを光軸合せのために駆動するため、光軸合せを容易に且つ十分に行うことが出来る。さらに、前記赤外光と前記可視光とを1つの光ファイバに導き、その1つの光ファイバの端部から出射した光を光ビームに形成して空間へ出射するため、光学系の構成が簡単になる。

【0005】第2の観点では、この発明は、10m以上離れた空間を介して2台を対向させ光信号を相互に送受信しうる空間伝送光通信装置において、波長0.8 μm以上の赤外光を発光する赤外光半導体レーザと、可視光を発光する可視光半導体レーザと、通信のために前記赤外光半導体レーザを駆動する通信用駆動手段と、光軸合せのために前記可視光半導体レーザを駆動する光軸合せ用駆動手段と、波長0.8 μm以上の赤外光を電気信号に変換する赤外光受光手段と、前記赤外光と前記可視光とを1つの光ファイバに導くと共にその光ファイバの端部から入射した赤外光を前記赤外光受光手段に導く光ファイバカプラまたは前記赤外光か前記可視光かを選択的に1つの光ファイバに導くかその光ファイバの端部から入射した赤外光を前記赤外光受光手段に導く光ファイバスイッチと、前記1つの光ファイバの端部から出射した光を光ビームに形成して前記空間へ出射すると共に前記空間から入射した光ビームを前記1つの光ファイバの端部に集光するレンズとを具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置を提供する。上記第2の観点による空間伝送光通信装置では、波長0.8 μm以上の赤外光を発光する赤外光半導体レーザを通信のために駆動するため、伝送信号の周波数帯域が数100MHz～数GHzの高速通信が可能である。また、可視光を発光する可視光半導体レーザを光軸合せのために駆動するため、光軸合せを容易に且つ十分に行うことが出来る。さらに、前記赤外光と前記可視光とを1つの光ファイバに導き、その1つの光ファイバの端部から出射した光を光ビームに形成して空間へ出射すると共に、空間から入射した光ビームを前記1つの光ファイバの端部に集光するため、光学系の構成が簡単になる。

【0006】第3の観点では、この発明は、上記構成の空間伝送光通信装置において、前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔を前記レンズの前記赤外光に対する焦点距離に合せたり、前記間隔を前記可視光に対する焦点距離に合せたりするための間隔調整手段を具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置を提供する。波長が異なれば同一のレンズにおける焦点距離が異なる。このため、異なる焦点距離に対して前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔が一定である

と、赤外光と可視光の両方に対して最適の光ビームを形成することが出来ない。上記第3の観点による空間伝送光通信装置では、前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔を調整し、前記レンズの前記赤外光に対する焦点距離に合せたり、前記可視光に対する焦点距離に合せたりする。このため、赤外光と可視光の両方に対して最適の光ビームを形成することが出来る。

【0007】第4の観点では、この発明は、上記構成の空間伝送光通信装置において、前記レンズの前記赤外光に対する焦点距離を前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔に合せたり、前記可視光に対する焦点距離を前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔に合せたりするための焦点距離調整手段を具備したことを特徴とする空間伝送光通信装置を提供する。上記第4の観点による空間伝送光通信装置では、異なる波長に対して前記レンズの焦点距離が一定になるように前記レンズを調整し、前記赤外光に対する焦点距離を前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔に合せたり、前記可視光に対する焦点距離を前記1つの光ファイバの端部と前記レンズの間の間隔に合せたりする。このため、赤外光と可視光の両方に対して最適の光ビームを形成することが出来る。

【0008】

【発明の実施の形態】以下、図に示す実施の形態により本発明をさらに詳細に説明する。なお、これにより本発明が限定されるものではない。

【0009】－第1の実施形態－

図1は、本発明の第1の実施形態の空間伝送光通信装置100Aを示す構成図である。この空間伝送光通信装置100Aは、波長1.31 μmまたは1.55 μmの近赤外光を発光する近赤外光半導体レーザ11と、波長0.66 μmの赤色光を発光する高出力の可視光半導体レーザ12と、伝送信号の周波数帯域が数100MHz～数GHzの高速通信のために前記近赤外光半導体レーザ11を駆動する通信用駆動回路13と、光軸合せのために前記可視光半導体レーザ12を駆動する光軸合せ用駆動回路14と、前記近赤外光を第1光ファイバ15cで第3光ファイバ15oに導くと共に前記赤色光を第2光ファイバ15pで前記第3光ファイバ15oに導く光ファイバカプラ15と、前記第3光ファイバ15oの端部に取り付けられた光コネクタ16と、その光コネクタ16を支持すると共に当該光コネクタ16の位置を前後に調整可能な微調台17と、前記第3光ファイバ15oの端部から出射された近赤外光および可視光を平行な光ビームLに形成するためのレンズ18とを具備して構成される。Scは、通信用駆動信号である。また、Spは、光軸合せ用駆動信号である。

【0010】図2は、上記空間伝送光通信装置100Aから出射される光ビームLを受光する光受信装置100Bと光軸合せに使用するスクリーン板5を示す構成図で

ある。この光受信装置 100B は、赤外光を電気信号に変換する受光素子 31 と、前記電気信号を増幅する増幅回路 32 と、端部から入射した赤外光を前記受光素子 31 に導く光ファイバ 33 と、その光ファイバ 33 の端部に取り付けられた光コネクタ 34 と、その光コネクタ 34 を支持すると共に当該光コネクタ 34 の位置を前後に調整可能な微調台 35 と、前記光ビーム L を前記光ファイバ 33 の端部に集光するためのレンズ 36 とを具備して構成される。Sr は、受信信号である。前記スクリーン板 5 は、上記光受信装置 100B の前面に着脱可能な白色板であり、図 4 に示すように、ターゲットマーク 51 が描かれている。

【0011】図 3 および図 4 は、上記空間伝送光通信装置 100A と上記光受信装置 100B の光軸合せ時の説明図である。空間伝送光通信装置 100A では、光軸合せ用駆動信号 Sp を光軸合せ用駆動回路 14 に印加し、可視光半導体レーザ 12 から赤色光を発光させる。また、微調台 17 により第 3 光ファイバ 150 の端部とレンズ 18 の間の間隔を調整し、赤色光に対するレンズ 18 の焦点距離に合せ、赤色光ビーム Lp を空間に出射させる。他方、光受信装置 100B では、スクリーン板 5 を前面に装着する。そして、スクリーン板 5 に赤色光ビーム Lp が適正に当たるように、空間伝送光通信装置 100A および／または光受信装置 100B の位置や向きを調整する。

【0012】図 5 および図 6 は、上記空間伝送光通信装置 100A と上記光受信装置 100B の通信時の説明図である。空間伝送光通信装置 100A では、通信用駆動信号 Sc を通信用駆動回路 13 に印加し、近赤外光半導体レーザ 11 から近赤外光を発光させる。また、微調台 17 により第 3 光ファイバ 150 の端部とレンズ 18 の間の間隔を調整し、近赤外光に対するレンズ 18 の焦点距離に合せ、近赤外光ビーム Lc を空間に出射させる。他方、光受信装置 100B では、スクリーン板 5 を前面から外し、微調台 35 により光ファイバ 33 の端部とレンズ 36 の間の間隔を調整し、近赤外光に対するレンズ 36 の焦点距離に合せる。そして、受信信号 Sr をモニタして感度が最大になるように空間伝送光通信装置 100A および／または光受信装置 100B の位置や向きを再調整する。この状態になれば、以後、高速通信を行うことが出来る。

【0013】なお、平凸レンズの焦点距離 f と、球面曲率 r と、屈折率 n とには、

$$1/f = (n-1)/r$$
 の関係がある。そこで、レンズ 18 が平凸レンズであり、球面曲率 r が 62.28 mm であり、波長 0.66 μm に対して屈折率 n = 1.514, 波長 1.31 μm に対して屈折率 n = 1.504, 波長 1.55 μm に対して屈折率 n = 1.501 の材料からなるものとすれば、波長 0.66 μm に対して焦点距離 f = 121.1

mm, 波長 1.31 μm に対して焦点距離 f = 123.6 mm, 波長 1.55 μm に対して焦点距離 f = 124.3 mm となる。

【0014】-第 2 の実施形態-

図 7 は、本発明の第 2 の実施形態の空間伝送光通信装置 200 を示す構成図である。この空間伝送光通信装置 200 は、波長 1.31 μm または 1.55 μm の近赤外光を発光する近赤外光半導体レーザ 11 と、波長 0.66 μm の赤色光を発光する高出力の可視光半導体レーザ 12 と、伝送信号の周波数帯域が数 100 MHz～数 GHz の高速通信のために前記近赤外光半導体レーザ 11 を駆動する通信用駆動回路 13 と、光軸合せのために前記可視光半導体レーザ 12 を駆動する光軸合せ用駆動回路 14 と、赤外光を電気信号に変換する受光素子 31 と、前記電気信号を増幅する増幅回路 32 と、前記近赤外光を 1 次側第 1 光ファイバ 19c で 2 次側光ファイバ 19o に導くと共に前記赤色光を 1 次側第 2 光ファイバ 19p で前記 2 次側光ファイバ 19o に導き且つ 2 次側光ファイバ 19o の端部から入射した赤外光を前記受光素子 31 に導く光ファイバ 19c と、前記 2 次側光ファイバ 19o の端部に取り付けられた光コネクタ 16 と、その光コネクタ 16 を支持すると共に当該光コネクタ 16 の位置を前後に調整可能な微調台 17 と、前記 2 次側光ファイバ 19o の端部から出射された近赤外光および可視光を平行な光ビーム L に形成すると共に前記空間から入射した光ビーム L を前記 2 次側光ファイバ 19o の端部に集光するためのレンズ 18 とを具備して構成される。Sc は、通信用駆動信号である。また、Sp は、光軸合せ用駆動信号である。また、Sr は、受信信号である。微調台 17 により 2 次側光ファイバ 19o の端部とレンズ 18 の間の間隔を調整し、近赤外光に対するレンズ 18 の焦点距離に合せておく。

【0015】図 8 は、前記空間伝送光通信装置 200 の前面に装着する焦点距離調整用アダプタ 6 の説明図である。この焦点距離調整用アダプタ 6 のレンズ 61 は、このレンズ 61 と前記空間伝送光通信装置 200 のレンズ 18 とを合成した場合の赤色光に対する焦点距離が、近赤外光に対するレンズ 18 の焦点距離に合致するように選ばれている。

【0016】図 9 は、2 台の上記空間伝送光通信装置 200 の間の光軸合せ時の説明図である。発光側の空間伝送光通信装置 200 では、光軸合せ用駆動信号 Sp を光軸合せ用駆動回路 14 に印加し、可視光半導体レーザ 12 から赤色光を発光させる。また、焦点距離調整用アダプタ 6 を装着し、赤色光ビーム Lp を空間に出射させる。他方、受光側の空間伝送光通信装置 200 では、スクリーン板 5 を前面に装着する。そして、スクリーン板 5 に赤色光ビーム Lp が適正に当たるように、発光側の空間伝送光通信装置 200 および／または受光側の空間伝送光通信装置 200 の位置や向きを調整する。

【0017】図10は、2台の上記空間伝送光通信装置200の間の通信時の説明図である。発光側の空間伝送光通信装置200では、焦点距離調整用アダプタ6を外し、通信用駆動信号Scを通信用駆動回路13に印加し、近赤外光半導体レーザ11から近赤外光を発光させ、近赤外光ビームLcを空間に出射させる。他方、受光側の空間伝送光通信装置200では、スクリーン板5を前面から外し、近赤外光ビームLcをレンズ36に入射させ、受信信号Srをモニタして感度が最大になるよう発光側の空間伝送光通信装置200および/または受光側の空間伝送光通信装置200の位置や向きを再調整する。この状態になれば、以後、双方向の高速通信を行うことが出来る。

【0018】

【発明の効果】本発明の空間伝送光通信装置によれば、10m以上離れた光送信装置と光受信装置の間で空間を介して高速光通信が可能であり且つ光送信装置と光受信装置の光軸合せを好適に行うことが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施形態の空間伝送光通信装置を示す構成図である。

【図2】光受信装置とスクリーン板を示す構成図である。

【図3】光軸合せ時の説明図である。

【図4】光軸合せ時の斜視図である。

【図5】通信時の説明図である。

【図6】通信時の斜視図である。

【図7】本発明の第2の実施形態の空間伝送光通信装置を示す構成図である。

【図8】焦点距離調整用アダプタの構成図である。

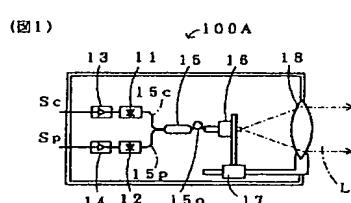
【図9】光軸合せ時の斜視図である。

【図10】通信時の斜視図である。

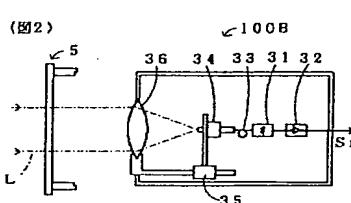
【符号の説明】

5	スクリーン
6	焦点距離調整用アダプタ
11	近赤外光半導体レーザ
12	可視光半導体レーザ
13	通信用駆動回路
14	光軸合せ用駆動回路
15, 19	光ファイバカプラ
16	光コネクタ
17	微調台
18	レンズ
31	受光素子
32	増幅回路
33	光ファイバ
34	光コネクタ
100A, 200	空間伝送光通信装置
100B	光受信装置

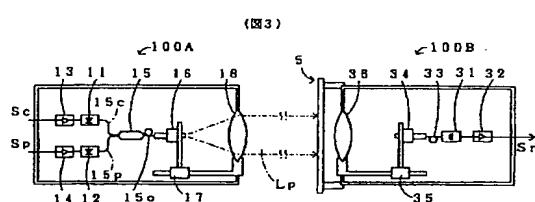
【図1】



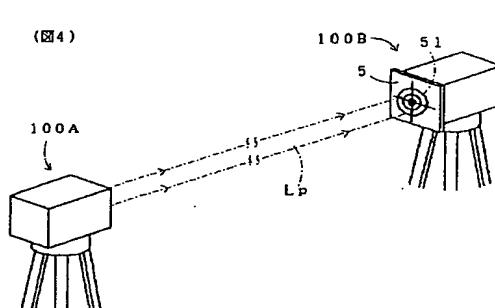
【図2】



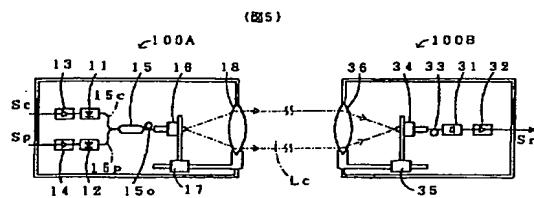
【図3】



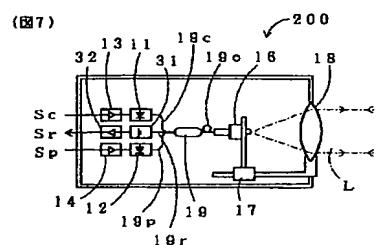
【図4】



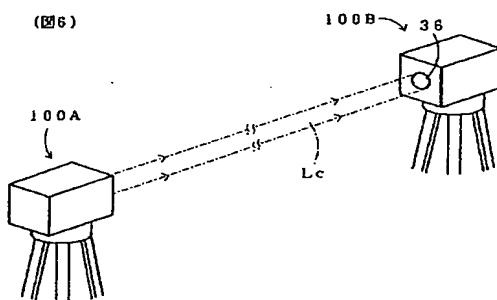
【図5】



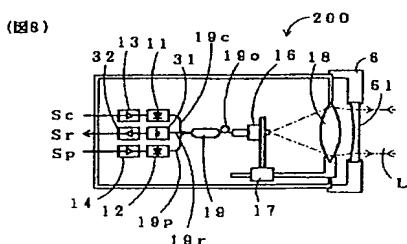
【図7】



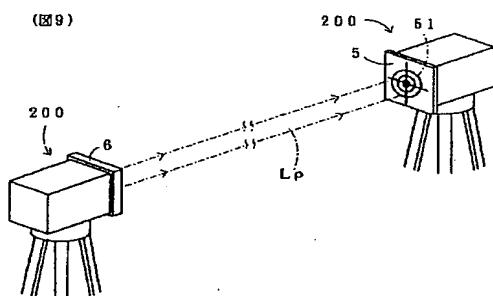
【図6】



【図8】



【図9】



【図10】

